



写真：2011年3月7日 宮城広野町 復興祈願塔

宮城学院女子大学 学芸員課程 2014 年度シンポジウム

「震災」を展示する ～モノ・ヒト・コトバ～

7月12日(土) 13:00～17:00

宮城学院女子大学 C - 201 教室
(講義館 2 階)

特別講師：**山内 宏泰 氏**

(リアス・アーク美術館学芸係長/学芸員)

主催：宮城学院女子大学 学芸員課程

お問い合わせ
〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘 9-1-1 人間文化学科 副手室
TEL/FAX:022-277-6166 メール:inoken@mgu.ac.jp(井上研究室)

交通
JR 仙台駅西口バスプール2番及び3番乗り場 宮城交通バス「宮城学院前」下車
※駐車場はございませんので公共交通機関をご利用ください

1. 講演
『ミッション：
何のために何を伝えようと
しているのか』
～リアス・アーク美術館「東日本大震災の記録と
津波の災害史」常設展示での試み～
2. 学生の取材報告
3. パネルディスカッション

東日本大震災の記憶の風化が始まる中、ミュージアムはどうあるべきなのか。震災と私たちはどう向きあったらいいのか。

被災地のひとつ気仙沼のリアス・アーク美術館で「震災」をテーマとした常設展の構成を手がけられた山内宏泰氏をお招きし、『ミッション：何のために何を伝えようとしているのか』～リアス・アーク美術館「東日本大震災の記録と津波の災害史」常設展での試み～と題してお話しいたします。

また、コメンテーターとして、東北歴史博物館の佐藤憲幸氏、福島県立博物館の川延安直氏をお招きし、学生たちが行った県内外のミュージアムの取材報告を踏まえてディスカッションを行います。

このシンポジウムを通し、これからのミュージアムと震災の関わり方について、私たちにできることは何か、皆さんとともに考えて行こうと思います。

やまうち ひろやす
山内 宏泰 氏

1971年、宮城県石巻市生まれ。現在、同気仙沼市に在住。1994年に宮城教育大学中学校美術教員養成課程卒業、同大学院入学(リアス・アーク美術館勤務のため9月中退)。同年10月よりリアス・アーク美術館学芸員に就任。気仙沼市・南三陸町震災記録調査を担当(2011年3月23日～2012年12月31日)。

現在、同館学芸係長、常設展示「東日本大震災の記録と津波の被害史」企画担当者/スローフード気仙沼理事/平成24年度～26年度国立歴史民俗博物館共同研究員。主な著書として、明治三陸大津波を題材とした小説『砂の城』(近代文芸社・2008年)がある。

1994年ころから美術家として個展、グループ展など多数。また舞台芸術家、舞台衣装家として多数の舞台に参加。



↑→過去のシンポジウムの様子



交通案内

宮城交通バス

- ① 仙台駅前⇄宮城学院前線
仙台駅西口バスプール 2、3 番乗り場
- ② 地下鉄旭ヶ丘駅⇄宮城学院前線
地下鉄旭ヶ丘駅 3 番乗り場

仙台市営バス

- ① 仙台駅前⇄桜ヶ丘七丁目(北仙台経由桜ヶ丘線)
仙台駅西口バスプール 13 番乗り場
- ② 地下鉄泉中央駅⇄南吉成団地線(北環状線)
地下鉄泉中央駅バスプール 1 番乗り場

※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。